

※2021年の報告数は暫定値です。

梅毒の発生動向【沖縄県：2011年～2021年】

沖縄県感染症情報センター（沖縄県衛生環境研究所）

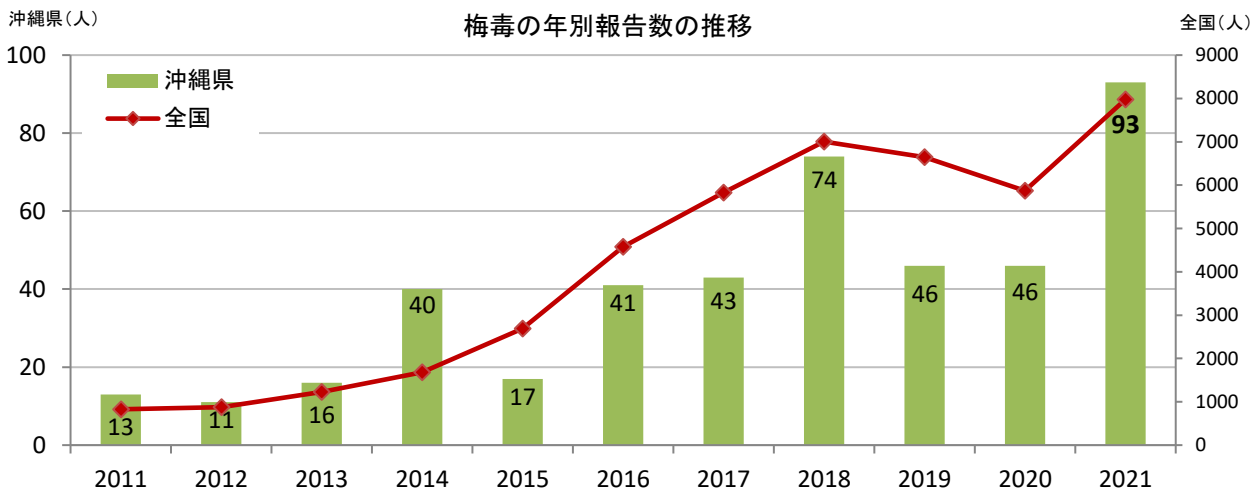
梅毒は、梅毒トレポネーマ(*Treponema Pallidum*)に感染することによって起こる感染症で、主に性行為(皮膚や粘膜との接触)により感染する性感染症です。

感染すると、性器や肛門、口にしこりができたり、全身に発疹が現れたりしますが、一旦症状が消えるため、治ったと間違われることがあります。また、妊婦が感染すると胎盤を通して胎児に感染する、先天性梅毒となる可能性があります。

検査や治療が遅れたり、治療せずに放置したりすると、脳や心臓に重大な合併症を起こすことがあります。場合によっては死に至る恐れがあります。

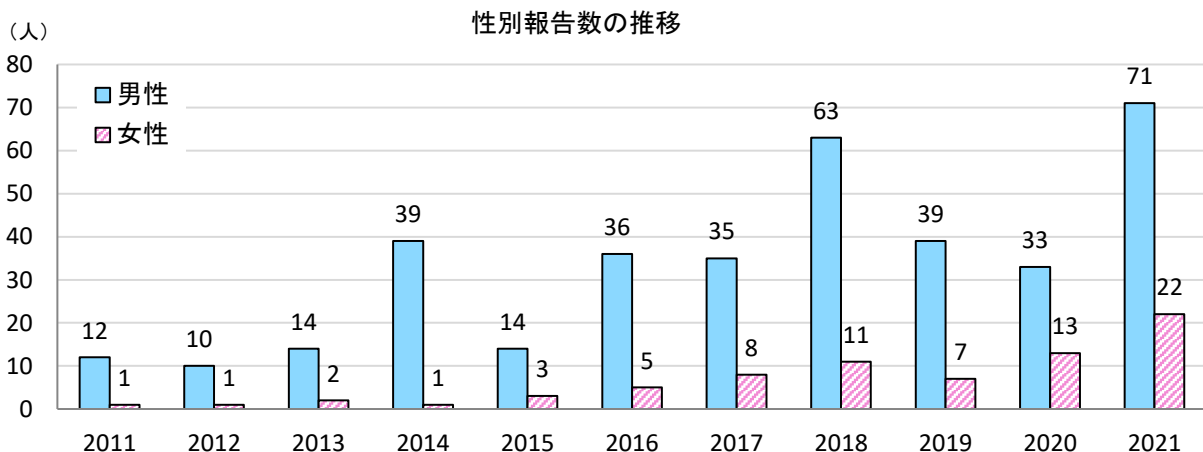
(1) 年別報告数の推移(沖縄県・全国)

- ・沖縄県における2021年の報告数(暫定値)は93人で、感染症法による全数報告が義務づけられた1999年以降、過去最高となっています。
- ・県内の保健所別届出受理数の内訳は、南部が45人と最も多く、次いで、那覇市が22人、中部が21人、北部と宮古が各2人、八重山が1人となっています。



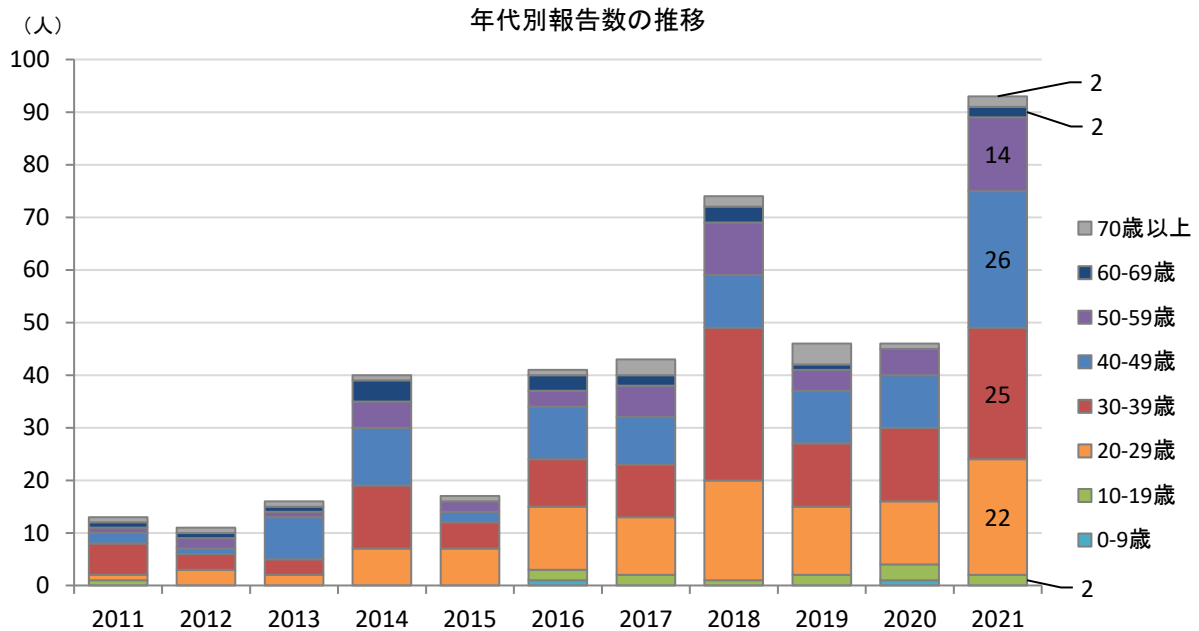
(2) 性別報告数

- ・例年、男性の方が多く報告されています。
- ・女性は2015年以降、増加傾向にあり、2021年は過去最高の22人が報告されています。



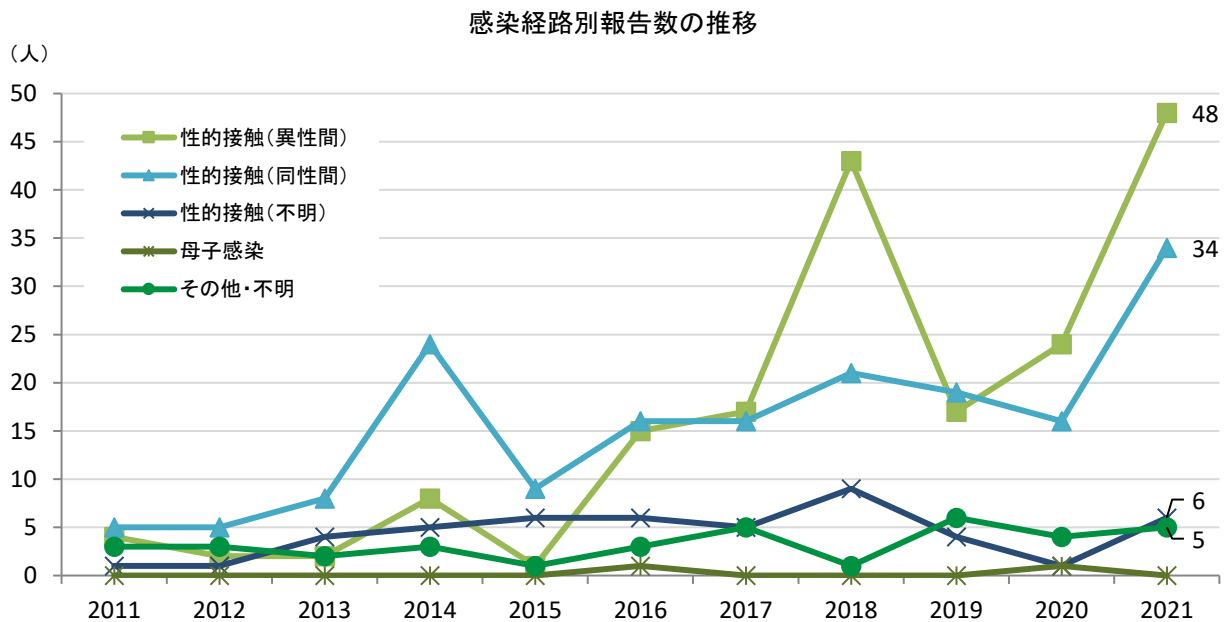
(3) 年代別報告数

- ・例年、20代から40代が多く報告されています。
- ・2021年は、40代が最も多く26人、次いで30代が25人、20代が22人、50代が14人、10歳未満、60代、70代以上が各2人です。



(4) 感染経路別報告数

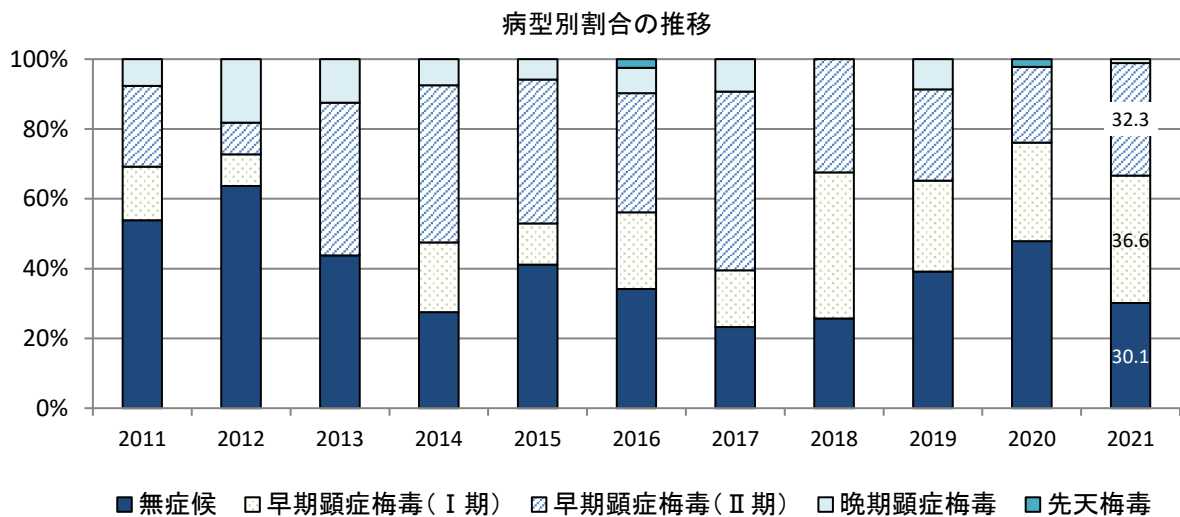
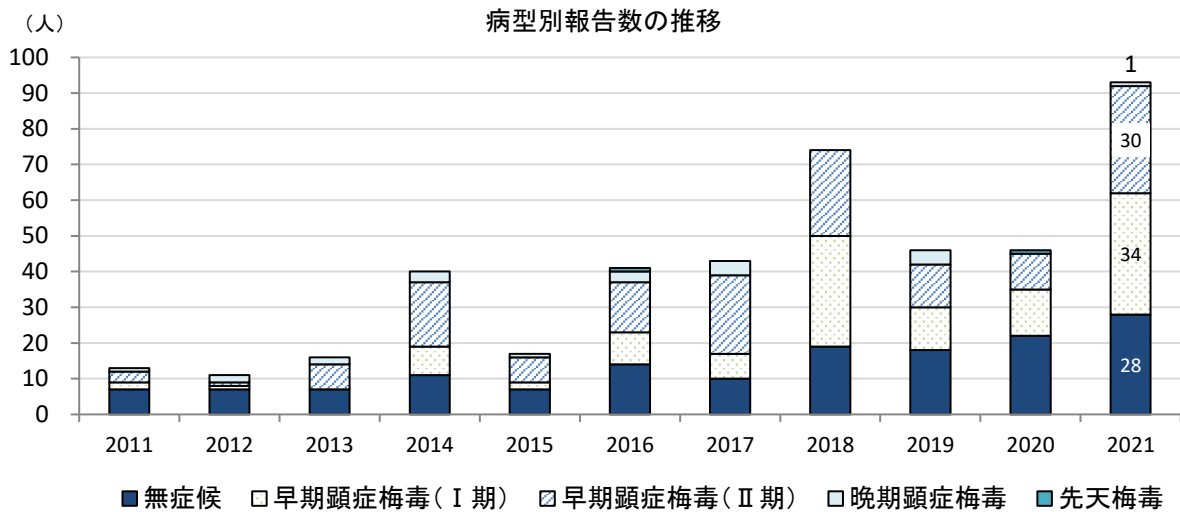
- ・2019年以降、性的接触(異性間)は増加傾向が見られます。
- ・2021年は、性的接触(異性間)が48人で最も多く、次いで性的接触(同性間)が34人、性的接触(不明)が6人、その他・不明が5人となっています。



※両性間の性的接触は性的接触(同性間)に含める

(5) 症状別報告数

- ・2021年は、早期顕症梅毒（Ⅰ期）が34人で最も多く、次いで早期顕症梅毒（Ⅱ期）が30人、無症候が28人、晩期顕症梅毒が1人報告されています。
- ・2021年は全体の68.9%を早期顕症梅毒（Ⅰ期）と早期顕症梅毒（Ⅱ期）で占めています。



(6) 予防・対策

- ・不特定多数との性交渉を控え、コンドームを使用しましょう。
- ・皮膚や粘膜等に異常があれば、早めに医療機関を受診しましょう。
- ・県内保健所では梅毒の検査を無料・匿名で行っていますが、新型コロナウイルス感染症の影響等で休止している場合があります。詳細については各保健所のホームページをご覧ください。

(7) 参考資料

- ・国立感染症研究所「梅毒とは」
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/465-syphilis-info.html>
- ・厚生労働省「梅毒に関するQ&A」
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html